

・令和5年11月28日(火) 16:00～ 岸根高校会議室

- ・出席者：・学校運営協議会委員・長島 由佳 様(すこやかサークル会長)、三田 敏幸 様(岸根町内会会長)、大西 勝也 様(神奈川大学人間科学部教授)、長谷川 樹生 様(しのはら幼稚園園長)、丹羽 滋子様(ママしのはら保育園園長)、望月 選様(F・マリノススポーツクラブ理事)、奥山 恭子様(岸根高校PTA会長)、久祢田 啓嗣(岸根高校学校長)
- ・職員・長澤 利恵子(副校長)、井浦 洋(教頭)、久保 裕紀(カリキュラムG総括)
松井 浩気(キャリア支援G総括)、菊本 亘孝(サポートG総括)、浦野 高宏(生活支援G総括)
尾崎 明美(地域連携協働G総括)、川崎 陽香(学校管理運営G総括) ※G = グループ

I 校長より

・6月27日第一回では今年度の方針確認

本日は中間報告と大本になるスクールミッションの確認を踏まえて協議できればいいと思う。

・今年度のサポートドックの紹介

生徒の回答状況を確認し対応していく。SSW、SC等と繋げながら対応する。

・文化祭の報告

・11月2年の修学旅行の報告

II 会長より

・生徒下校の様子をみて、不審車両目撃後の教員が見守りながら下校させている様子が良かった。

・サポートドックの取り組みや回答を意識し、社会情勢を踏まえより良い協議になれば良い

III 報告事項

学校評価中間報告

・カリキュラムグループより

生徒の学習意欲を伸ばすためにも授業力向上のための研修等に取り組んだ。

1, 2年生の端末を使用した授業等の情報交換を行った

・生活支援グループより

4年間の目標を元にも、生活習慣の基本、コロナ禍での始業時間を遅らせたことにより、余裕ができていく。朝の生徒が遅刻しないような指導について担任のみならず多くの教員で対応したい。

9月にサポートドックを行った。12月にも2回目を行う予定である。

・サポートグループより

生徒会部活動等

学校行事部活動についての報告、コロナ前から久しぶりの行事開催について、新しい発想や過去のデータを元に開催できた。

生徒とともに取り組んでいく姿勢、生徒の自ら発案し行動できる生徒の姿勢を育てている。

後夜祭や体育祭の企画など主体的な取り組みができた。満足度→楽しただけではなく身についた力などを実感してほしい。

部活動を通して加入率というよりも、生徒が部活動を通して何を学び感じるのかを考え進めていく。

・キャリア支援グループより

外部の教育資源の活用し、生徒に良いキャリアの取り組みをしていこうという考えの元キャリア支援を進めていく。

1年生はサークルアクションを実施し、探究活動を行っている。

夏期講習の中にもキャリア育成型の講座を開講、外にある教育資源を活用している
教員全体のキャリア支援の意欲向上が必要である。

HPによるキャリアからの発信をより多く発信していく予定である。

目まぐるしく変わっていく進路の状況を把握してほしい

・地域連携協働グループより

今年もすこやか祭りを実施することができた。地域連携はコロナ禍前に戻ってきており、本校の特色として活性化している。

・学校管理運営グループより

ICT機器の活用の急激な速度に対応できるように機器備品の管理をしている。

Wi-Fiの拡張を校内で行っている。

防災意識の向上、避難訓練等を実施している。

ブレスト保育園と連携し保育園にも施設開放して避難訓練を行う予定である。

地域の危険な場所などの把握等どのように進めていくか検討中。

同窓会長を講師に招聘し、職員対象の人権研修を開催した。

生徒による授業評価（カリキュラムグループ）

・資料より、昨年よりも数値が向上していることがわかる。

・ICTの活用で意見の集約が容易になり伸びた数値もある

・教員側の授業力向上に向けて引き続き取り組んでいきたい

学校生活に関するアンケート（生活支援グループ）

・従来学校生活に関するアンケートは年3回紙媒体で行っていたが今年度はICTを利用しサポートドックとは分けて活用していくが、紙ベースのものと併用しながら進めていく。

・集計結果については学年によって差が出ている。1年生は入学したてで不安定だったかもしれない。

・7月に実施したサポートドックの回答後の取り扱いについて説明した。

IV 意見交換

A：サポートドックは良い取り組みである、1人1台端末の活用もとても良い取り組みであると感じた。

質問→神奈川大学との連携の内容についてどんな取り組み？

回答→「岸根を歩く」では様々な史跡など郷土の歴史などを知ることができた。

その後神奈川大学へ行きプチ学校説明会的なことをしていただいた。

B：「岸根を歩く」、また次回もお願いしたい

岸根の盆踊り大会では岸根の生徒にも手伝ってもらい、和やかでとても評判が良かった

城郷フェスタへの出演等地域の方々にも喜ばれている

4月14日城郷城址祭りにも岸根の生徒にも参加願いたい

C：学校生活アンケートの結果について1年生がネガティブな回答が多い結果から2・3年と進むに連れて良い報告に行くのは学校の対応の成果か？→一概に言えない、コロナの影響もあるのかなとも感じるので正確には様々なデータを集計しなくてはならない

D：学校生活アンケートの結果を見ると人間関係がポイントになっているのかなと感じる

心身の幸福感、学校がウェルビーイングであるためにも協働的な学びを重視している取り組みは良いと感じる

たくさんの実習生を送っていただきありがたい。実習生の日誌などから学ぶことも多い、生徒にも良い経験になるので引き続き連携していきたい。

E:こんなに地域と連携している学校は珍しい、とても良い。

F:すこやか祭りのサッカー教室のお手伝いとして参加してもらっていたところから生徒にもっと主体的に活動に参加してもらい新しい活動をしていきたい。

G:1年生の部活動加入率の分析から、なぜ?という所を把握して検証していくことで他の活動に反映していけるのではないかと思った。

生徒とのコミュニケーションのために教員の関わり方の難しさ、生徒が主体的に考え行動できるための足がかりとなり、生徒の成長の芽生えをアンケートより感じる事ができた。

卓球部にスペシャルオリンピックの審判をしてもらったが、部活動生徒の参加を通して良い経験、活動であった。

地域の方々が見守っていてくれて地域と共存していく学校である。

良いことも悪しきことも分析、検証を行い続けて行ってください、更に良い岸根高校にしていくために引き続き活動して行ってほしい。

子供たちが慣れていってしまい「これでいいや」とならないように意識をもって行ってほしい。

地域連携協働グループより

短歌交流や地域との連携において非常に感謝している。

保育園実習なども含め今後ともよろしくお願ひしたい。

V その他（質問）

・AIの活用についてどうしているか?

18歳未満の使用は保護者の許可が必要、県からの通知も考慮して積極的に活用してはいない。これからの動向を見ながら展開していきたい。

ウィキペディアの活用に似ている。必要なのは情報の中から確実に重要な情報を判断する力が必要である。嘘の情報に惑わされないようにしたい。